8　芸術（書道）

学校番号	3020

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅱ（東京書籍）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生徒各々が個性豊な書作品を完成させる充実感や達成感を味わいましょう。
・グループワークも取り入れますので、協調して作品を仕上げる喜びも味わいましょう。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の創造的活動を通して、感性を高め、個性豊な表現と鑑賞の能力を伸ばす。また、書を愛好する心情を育てるとともに、書の伝統と文化についての理解を深め、書の表現的意義も追求する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、意欲的に取り組もうとする。	創作意図を意欲的に表現し、工夫している。	創造的な書表現のために、幅広い視野と工夫を重ねている。また、筆による表現の多様性を認識している。	生徒相互の意見交換を活発にし、表現の幅を広げている。書のよさや美しさを創造的に味わい、それを表現する力をつけている。
主たる評価方法	観察 レポート ワークシート	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4 5 6	仮名の書	・書道Ⅰの仮名を踏まえ、古筆の臨書 ・変体仮名に親しむ ・料紙 ・篆刻による印を押印	○	○		○	a. 平安時代の古筆の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 b. 連綿や墨継ぎの校歌を意識し、表現を工夫している。 c. 表現技法を高めるため、姿勢・執筆法などに留意している。 d. 変体仮名の字源も理解し、作品を全体として把握している。	観察 レポート ワークシート 提出作品
7 8 9	漢字かな交じりの書	・言葉を決める ・顔彩での彩色 ・パネルへの表具 ・篆刻による印を押印 ・陶板制作	○	○	○		a. 表現したい意図に合う言葉を選択している。 b. 様々な構成を考え、用筆にも工夫がある。 c. 墨色や彩色など、効果的に意図表現できるよう工夫している。また、日常に使えるものにこの単元の活動を生かせている。 d. 生徒相互に作品鑑賞し、その美しさを味わっている。	観察 ワークシート 提出作品
10 11 12 1	工芸的作品	・藍染「のれん」の共同制作 ・3人グループワーク ・共同でテーマを決め、各自の揮毫する分担を決める。 ・型紙に「書」を転写し、カットする。 ・白のれんを藍染する。 ・型紙を置き、白抜き。 ・落款は篆刻	○	○	○		a. グループワーク活動で、互いに協調し意欲的に取り組もうとしている。 b. グループのテーマにそった工夫や表現をしている。 c. 「のれん」全体をグループ一体でとらえ、広い視野で工夫している。 d. 自身が揮毫した「書」を「のれん」に染めるという別の様式の美を、味わっている。	観察 レポート ワークシート 提出作品
2 3	生活の中の書	小筆による日常書	○	○			a. 暮らしの中に書を生かそうとし、関心を持っている。 b. 日常で使う場合の書に向き合い、練習を重ねている。 c. 書の学習で身につけたことを生かし、暮らしの中での書に工夫している。 d. 生活の中での小筆の活用の効果を認識し、その良さを味わっている。	観察 提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。